

社会資本整備審議会における検討について

1. 下水道小委員会の設置

社会資本整備審議会都市計画・歴史的風土分科会に設置されている都市計画部会において、平成17年6月から「新しい時代の都市計画はいかにあるべきか」について検討が進められてきており、これまで、中心市街地再生、都市交通・市街地整備に関する審議が行われてきた。

この度、平成18年8月2日の第9回都市計画部会において、今後の検討の方向性について審議が行われ、下水道について、今後も厳しい財政制約が続くなか、住民との対話を進め、事業間の連携を深め、地域のニーズを踏まえることにより、諸課題にどのように対応すべきか、検討する必要があるため、同部会の下に下水道小委員会を設置し、以下の事項について検討を行うこととされた。

(検討課題)

環境と共生した持続的発展が可能な社会の構築に向けた、新たな下水道の役割とその推進方策は、いかにあるべきか。

下水道未普及地域を早期に解消するための整備手法は、いかにあるべきか。

下水道機能の質的向上について、中長期的な整備目標と戦略的な推進方策は、いかにあるべきか。

ストックが増大するなか、適正な下水道施設の管理は、いかにあるべきか。また、下水道経営の健全化は、いかにして図るべきか。

2. 今後のスケジュール

平成18年10月から6回程度の審議を行い、平成19年3月を目途にとりまとめを行う。その成果は、同時に進められる次期社会資本整備重点計画(平成20年度から24年度を予定。)の検討に反映する予定。

平成18年10月31日 第1回下水道小委員会

平成19年3月頃 下水道小委員会における検討のとりまとめ

平成19年6月 次期社会資本整備重点計画「中間とりまとめ」

平成20年7月 次期社会資本整備重点計画 閣議決定

社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会
都市計画部会 下水道小委員会
委員名簿

(委員長)

松尾友矩 東洋大学学長

(委員長代理)

三井康壽 住宅金融公庫副総裁

(委員)

井出多加子 成蹊大学教授
櫻井敬子 学習院大学教授
虫明功臣 福島大学教授

(臨時委員)

岸井隆幸 日本大学教授
佐々木誠造 青森市長

(専門委員)

大久保尚武 積水化学工業株式会社社長
田村政志 (財)自治体衛星通信機構理事長
沼尾波子 日本大学助教授
花木啓祐 東京大学大学院教授
山内弘隆 一橋大学大学院教授

(五十音順)

「新しい時代における下水道のあり方」を検討するにあたっての枠組み

現行の社会資本整備 重点計画における 下水道の取り組み

<暮らし> ~生活空間の充実等を通じた豊かな生活の実現

- ・良好な居住環境の形成
(汚水処理の普及)

<安全> ~防災の高度化の推進

- ・水害等の災害に強い国土づくり
(大雨にも安全な都市づくり)

<環境> ~地球環境から身近な生活環境までの保全・創造

- ・地球温暖化の防止
(一酸化二窒素の排出抑制)
- ・循環型社会の形成
(下水汚泥のリサイクル)
- ・良好な水環境への改善
(高度処理の推進、合流式下水道の改善)

災害対策の強化
活力あるまちづくりの実現
地球環境問題、資源・エネルギー問題の深刻化
健全な水循環系の構築

取り組みの評価

社会ニーズの変化

考慮すべき課題

人口減少・少子高齢化社会の到来
財政的制約の強まり
下水道ストックの増大

新しい時代における下水道のあり方

< 諮問事項 >

環境と共生した持続的発展が可能な社会の構築に向けた、新たな下水道の役割とその推進方策は、いかにあるべきか

下水道未普及地域を早期に解消するための整備手法は、いかにあるべきか

下水道機能の質的向上について、中長期的な整備目標と戦略的な推進方策はいかにあるべきか

ストックが増大するなか、適正な下水道施設の管理は、いかにあるべきか。また、下水道経営の健全化は、いかにして図るべきか

< 検討にあたっての視点 >

1. 下水道の役割の再整理
未来への投資の視点
成果重視の視点
2. 進め方の再整理
 - (1) 施策の総合化
関係主体との連携・協働
計画、整備、管理の総合的な取り組み
ハード整備とソフト対策の一体的な取り組み
既存ストックの有効活用
 - (2) 住民参画
情報開示
住民との協働
目標の共有
 - (3) 選択と集中
時間管理概念の導入
優先順位の明確化(分野、場所、水準)

...